

水辺のにぎわいへ情報発信

島商生徒アプリ発表

中区

見込む。

生徒5人が県西部の行政、企業関係者ら約50人の前に立ち、スクリーンで内容を説明した。代表の鈴木咲菜さん(17)は「水辺に人が集まり、いろいろなアイデアを出してもらうことが必要。皆さんが『ミスベリング』を広めていってほしい」と呼び掛けた。

官民連携で水辺のにぎわいづくりを目指す国土交通省浜松河川国道事務所のプロジェクト「ミスベリング・ハママツ」(静岡新聞社・静岡放送後援)の会合が20日、浜松市中区のアクトシティ浜松コングレスセンターで開かれた。新しくプロジェクトに加わった県立島田商業高(島田市)の3年生が水辺の情報を発信するスマートフォンアプリを発表した。行政などと連携してアプリ開発に取り組み同校の生徒の活動に注目したプロジェクトメンバーが作成を依頼した。アプリでは浜名湖や天竜川の風景に加え、水辺を活用して誘客効果やビジネスを生み出す「ミスベリン



自作アプリについて発表する県立島田商業高の生徒＝浜松市中区のアクトシティ浜松コングレスセンター